

香川労働局発表
平成 30 年 4 月 26 日

担 当	香川労働局労働基準部 健康安全課
	健康安全課長 中山 智 衛生専門官 植田 泰明 【電話】 087-811-8920(直通) 【夜間】 087-811-8926(呼出) H P : http://kagawa-roudoukyoku.jsite.mhlw.go.jp/

「熱中症」予防対策を強化!

～ 「STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン」展開中 ～

香川労働局（局長 ^{かめざわのりこ} 亀澤典子）は、今夏、労働者の熱中症による労働災害を未然に防止するために予防対策を強化します。

- 1 「STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン」を4月を準備期間とし、5月～9月まで実施。詳細は別添リーフレットのとおりに。
- 2 上記1の取組の一環として、6月～9月の間、現場パトロールを強化この4か月間、建設工事現場、製造業を中心に、熱中症予防の指導を実施予定。

【 過去6年間、香川県内で発生した労働者に係る熱中症の特徴 】

熱中症における災害発生状況の分析（休業4日以上） 別添資料参照

過去6年間で休業4日以上は32人、労災認定決定数（不休災害も含む）は343人

昨年の労災認定決定数は、過去6年で一番多い80人。これは、平成24年～平成28年の5年平均の1.5倍。死亡者数は1人（全国では16人）。

7月と8月で8割以上(27人/32人=84.4%)、8月だけで約6割(19人/32人=59.4%)が発生。

時間帯は14時台～17時台に約6割が発生。(18人/32人=56.3%)
18時以後も発生している。

休業見込期間は、2週間以内が、全体の6割以上(21人/32人=65.6%)であるが、
死亡災害は1割以上(4人/32人=12.5%)発生している。

年代別では、30代～50代が多い。

業種は製造業、建設業で多く発生しているが、多岐にわたる。死亡に至った災害は、昨年に建設業で1人発生している。過去には警備業(平成27年:2人)、建設業(平成24年:1人)(合計4人)。

STOP！熱中症

平成30年5月～9月

クールワークキャンペーン


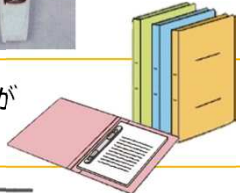

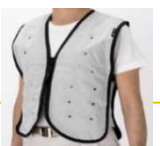


— 熱中症予防対策の徹底を図る —

職場における熱中症で亡くなる人は、毎年全国で10人以上にのぼり、4日以上仕事を休む人は、400人を超えています。厚生労働省では、労働災害防止団体などと連携して、「STOP！熱中症クールワークキャンペーン」を展開し、職場での熱中症予防のための重点的な取組を進めています。各事業所でも、事業者、労働者の皆さまご協力のもと、熱中症予防に取り組みましょう！

実施期間：平成30年5月1日から9月30日まで（準備期間4月、重点取組期間7月）



事業場では、期間ごとに実施事項に重点的に取り組んでください。
確実に実施したかを確認し、 にチェックを入れましょう！

準備期間（4月1日～4月30日）	
暑さ指数（WBGT値）の把握の準備	JIS規格「JIS B 7922」に適合した暑さ指数計を準備しましょう。 
作業計画の策定等	暑さ指数に応じて、作業の中止、休憩時間の確保などができるよう余裕を持った作業計画をたてましょう。 
設備対策・休憩場所の確保の検討	簡易な屋根の設置、通風又は冷房設備や、ミストシャワーなどの設置、により、暑さ指数を下げる方法を検討しましょう。また、作業場所の近くに冷房を備えた休憩場所や日陰などの涼しい休憩場所を確保しましょう。 
服装等の検討	通気性のいい作業着を準備しておきましょう。クールベストなども検討しましょう。 
教育研修の実施	熱中症の防止対策について、教育を行いましょう。 
熱中症予防管理者の選任及び責任体制の確立	熱中症に詳しい人の中から管理者を選任し、事業場としての管理体制を整えましょう。 
緊急事態の措置の確認	体調不良時に搬送する病院や緊急時の対応について確認を行い、周知しましょう。

【主唱】厚生労働省、中央労働災害防止協会、建設業労働災害防止協会、陸上貨物運送事業労働災害防止協会、港湾貨物運送事業労働災害防止協会、林業・木材製造業労働災害防止協会、一般社団法人日本労働安全衛生コンサルタント会、一般社団法人全国警備業協会 【協賛】公益社団法人日本保安用品協会、一般社団法人日本電気計測器工業会 【後援】農林水産省、国土交通省、環境省

キャンペーン期間（5月1日～9月30日）

STEP 1

暑さ指数（WBGT値）の把握

JIS規格に適合した暑さ指数計で暑さ指数を測りましょう。



STEP 2

準備期間中に検討した事項を確実に実施するとともに、測定した暑さ指数に応じて次の対策を取りましょう。

暑さ指数を下げるための設備の設置	
休憩場所の整備	
涼しい服装等	
作業時間の短縮	暑さ指数が高いときは、 作業の中止、こまめに休憩をとる などの工夫をしましょう。
熱への順化	暑さに慣れるまでの間は 十分に休憩を取り、1週間程度かけて徐々に身体を慣ら しましょう。
水分・塩分の摂取	のどが渴いていなくても 定期的に水分・塩分 を取りましょう。
健康診断結果に基づく措置	糖尿病、高血圧症、心疾患、腎不全、精神・神経関係の疾患、広範囲の皮膚疾患、感冒、下痢 などがあると熱中症にかかりやすくなります。医師の意見をきいて人員配置を行いましょ。う。
日常の健康管理等	前日の飲みすぎはないか、寝不足ではないか、当日は朝食をきちんと取ったか、管理者は確認しましょう。熱中症の具体的症状について説明し、早く気づくことができるようにしましょう。
労働者の健康状態の確認	作業中は管理者はもちろん、作業員同士お互いの健康状態をよく確認しましょう。

STEP 3

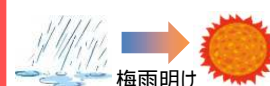
熱中症予防管理者は、暑さ指数を確認し、巡視等により、次の事項を確認しましょう。

- 暑さ指数の低減対策は実施されているか
- 各労働者が暑さに慣れているか
- 各労働者の体調は問題ないか
- 作業の中止や中断をさせなくてよいか
- 各労働者は水分や塩分をきちんと取っているか

異常時の措置

少しでも異変を感じたら **ためらわずに病院へ運ぶか、救急車を呼びましょう。**

重点取組期間（7月1日～7月31日）



暑さ指数の低減効果を改めて確認し、必要に応じ追加対策を行いましょ。う。

特に梅雨明け直後は、暑さ指数に応じて、作業の中断、短縮、休憩時間の確保を徹底しましょ。う。水分、塩分を積極的に取りましょ。う。

各自が、睡眠不足、体調不良、前日の飲みすぎに注意し、当日の朝食はきちんと取りましょ。う。期間中は熱中症のリスクが高まっていることを含め、重点的に教育を行いましょ。う。

少しでも異常を認めたときは、ためらうことなく、すぐに病院に運ぶか救急車を呼びましょ。う。



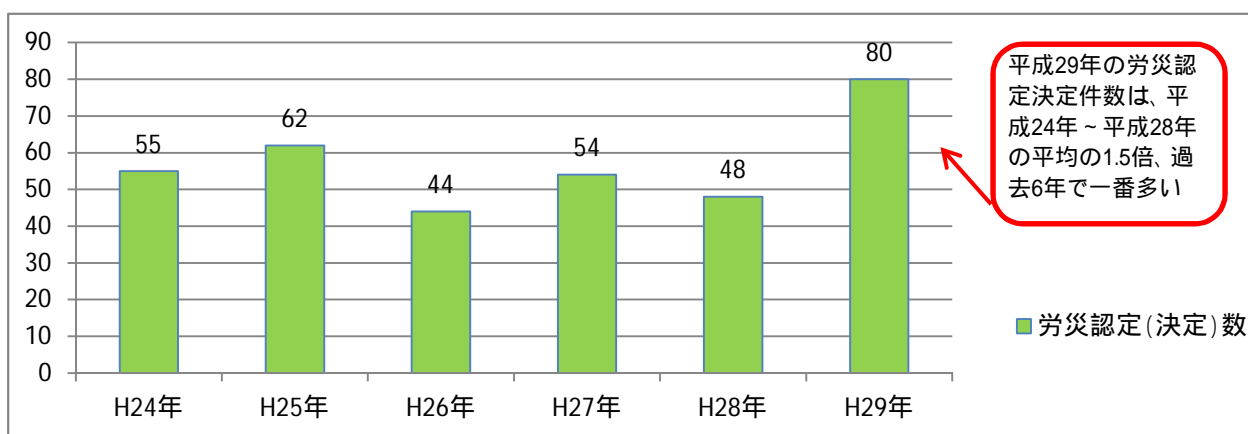
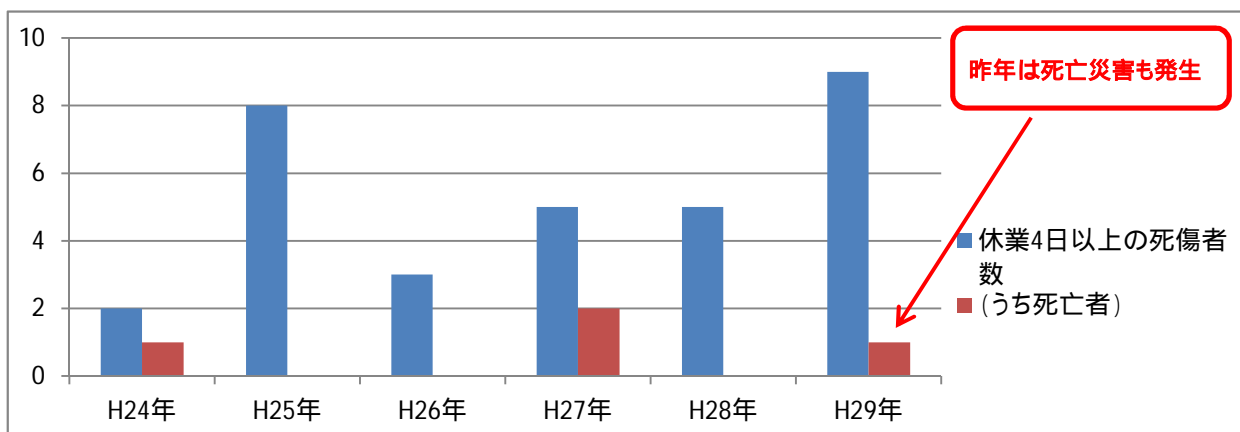
平成24～29年の6年間の熱中症の労働災害発生状況

香川

発生年別 (休業4日以上之死傷者数及び労災認定(決定)数)

(単位:人)

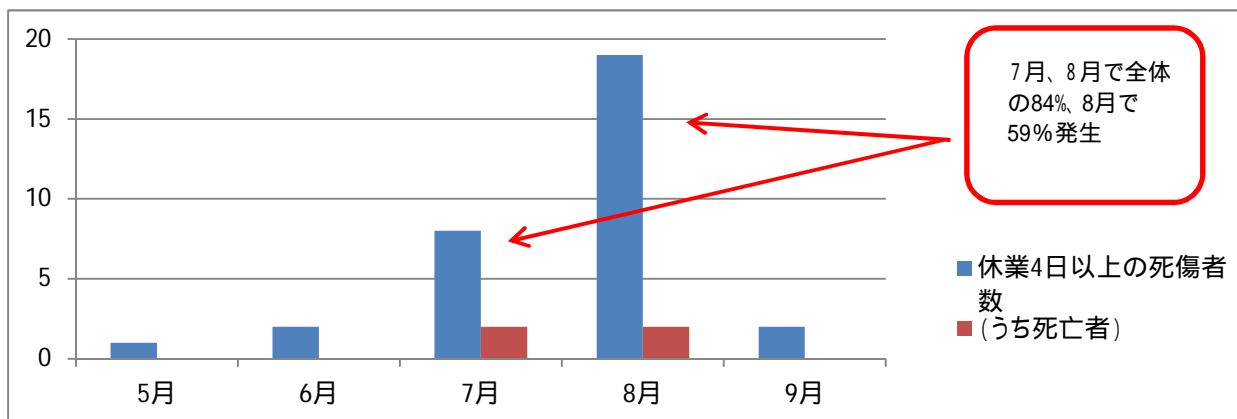
	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	計
休業4日以上之死傷者数	2	8	3	5	5	9	32
うち死亡者	1	0	0	2	0	1	4
労災認定(決定)数	55	62	44	54	48	80	343



発生月別 (H24～29年の6か年分32件の分析)

発症月	5月	6月	7月	8月	9月	計
休業4日以上 の死傷者数	1	2	8	19	2	32
(うち死亡者)	0	0	2	2	0	4

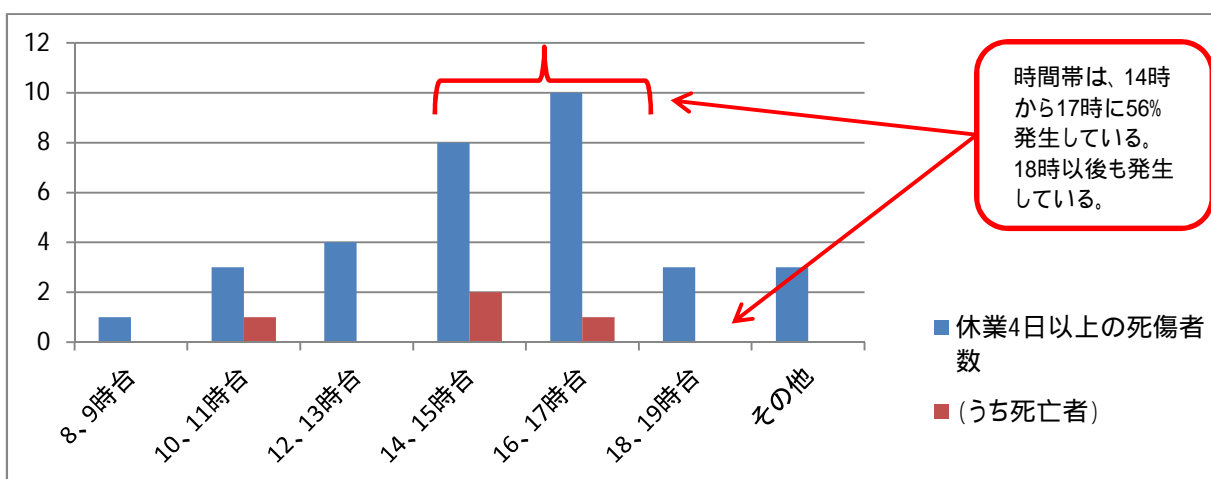
(単位:人)



発生時間帯別 (H24～29年の6か年分32件の分析)

(単位:人)

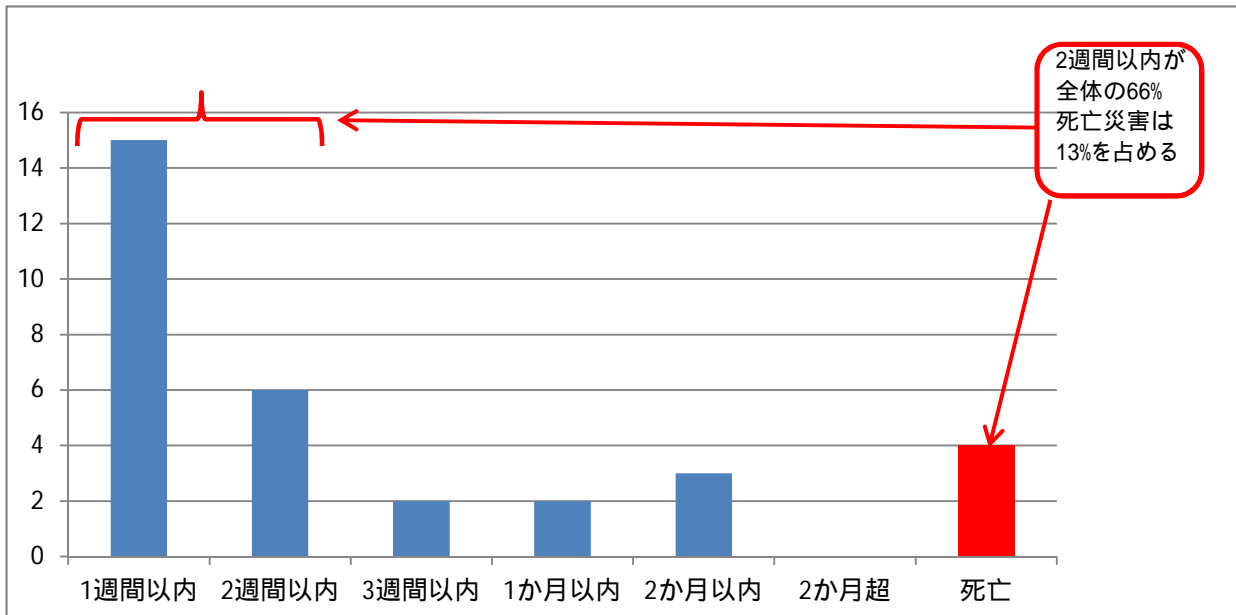
時間帯	8、9時台	10、11時台	12、13時台	14、15時台	16、17時台	18、19時台	その他	計
休業4日以上 の死傷者数	1	3	4	8	10	3	3	32
(うち死亡者)	0	1	0	2	1	0	0	4



休業見込期間別 (H24～29年の6か年分32件の分析)

(単位:人)

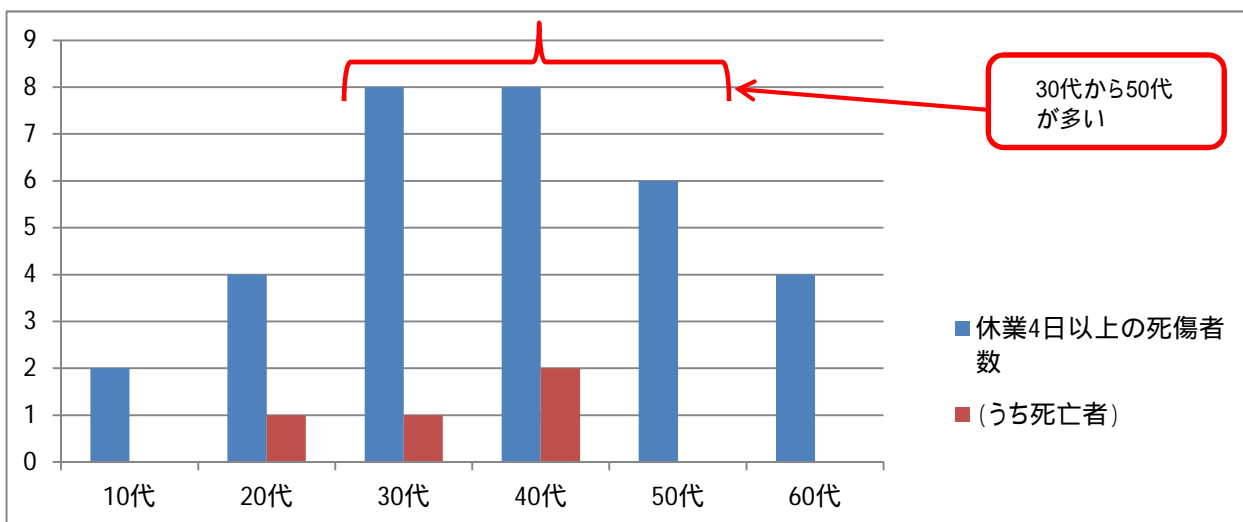
休業見込期間	1週間以内	2週間以内	3週間以内	1か月以内	2か月以内	2か月超	死亡	計
休業4日以上の死傷者数	15	6	2	2	3	0	4	32



年代別 (H24～29年の6か年分32件の分析)

(単位:人)

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
休業4日以上の死傷者数	2	4	8	8	6	4	32
(うち死亡者)	0	1	1	2	0	0	4



業種別 (H24～29年の6か年分32件の分析)

(単位:人)

業種	製造業	運輸交通業	建設業	警備業	清掃・と畜業	接客業	その他	計
休業4日以上 の死傷者数	6	4	6	4	2	3	7	32
(うち死亡者)	0	0	2	2	0	0	0	4

